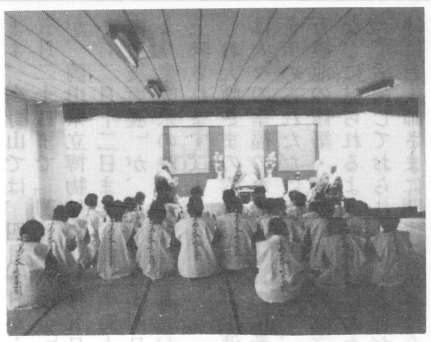
真言宗最高の儀式

――昭和五十八年十月二十六日、西大寺観音院道場に於て五十年振りの行事、結縁灌頂に参加して――

庄田　黒田泰治

弘法大師御入定千百五十年御遠忌記念儀式高野山真言宗備前宗務支所管内八十ヶ寺檀信徒篤信者一二〇〇名、法悦に浸る、生乍らに仏に成る即身成仏は俗世に生きる者誰でもの願いだろう。その即身成仏を体験する秘法にて生涯に二度と受ける事の出来ない儀式。

今宿縁多幸にして千載一遇と言うべき結縁灌頂の法悦の感激に仏に近づいた喜びをかみしめて。灌頂の行事は、古代より受けた事のない人にはその内容を知らせる事無く一般公開が禁じられておりますので、灌頂の様子は絵画にも描かれず写真も録音も取られておりません。観音院境内に八十ヶ寺の住職達が正装に身を包み威を正し



て本堂へ向けて練り供養を行い、法螺貝を先頭に鐃鉢が打ち鳴らされ静々と行列が進む、最後尾近くには高野山、森管長様が天蓋を差し掛け乍ら歩を運び、さながら絵巻物を見る感じであった。幔幕の張られたる堂前に於てはひときわ高い読経、周囲の交通騒音を消して身も心も引き締る。八十名の唱和が響き渡るお練りを終り、住職達は三昧耶戒と言う清めの御真言、おんさんまやさとばんをくり返し、くり返して法会へと進みして、檀信徒篤信者黒田正装で入りし頭には茶人帽を頂き、身には作務衣着用し背中には南無大師遍照金剛と書いた白衣の笈摺を、首には輪袈裟、手には念珠持ち、足は白履物で説戒所と言う一室に集合をして儀式の意義を聞き、一心に繰り返し三昧耶戒御真言、おんさんまやさとばん、そして一心にお経を唱え乍ら一人一人が順番に本堂の中へ目かくしをされて結縁儀式内道場へと入りたり、弘法大師と縁を結び、密教の教主様大日如来の加持力に依って吾れ即身成仏を果すと言う意味、信仰之道、無我無心の境地、凡夫も仏に成れると言う喜び、即身成仏は凡夫も現世で悟りを開けば仏に成れるという事、今回の儀式参加は単なる理屈で無く仏と吾れが一体となる事が実際に体得した訳で有り、障子紙二重折りで目隠し、手印の間に五葉の樒をはさみて大日如来曼荼羅に向って五葉の樒を投げ、落ちた所が「貴殿の投下された樒は何と本尊仏大日如来の頭上です」と付きそいの住職の説明があり、その落ちた場所が貴殿の本尊仏に成るのですよと言われました。今度は目隠を取りて管長様の座前へ進みして五鈷をはさみて合掌、灌頂の儀を受け、続いて錦絵の宝冠を頂き己れの姿を写し見ると言う順序を得て儀式修了の高野山金剛峯寺結縁灌頂血脈を頂載す。

弘法大師と密教美術展

真言宗の開祖、弘法大師（空海）の入定一一五〇年を記念する「弘法大師と密教美術展」が新春一月五日から二月十二日まで岡山県立博物館で開かれます。

この展覧会は、三月から、京都国立博物館を皮切りに、東京、札幌、福岡、名古屋を巡回し、これまで50万人の入場者に大きな感銘を与えましたが、いよいよ岡山を最終会場として一年がかりの幕を閉じます。

大師ゆかりの品をはじめ、修法の用具として生み出された密教美術の秘宝が、真言宗各派本山はじめ全国90個所から出陳されます。

北面大師

国宝、重要文化財指定が九割近くを占め、今後これだけの名品が一堂に公開されることは絶無といわれます。

弘法大師御入定千百五十年御遠忌記念事業として、真言宗と東映がタイアップして（四月十四日全国一斉公開の予定で）劇映画「空海」を制作しております。主演には北大路欣也をむかえ、その他、森繁久彌、丹波哲郎等の豪華キャストをそろえています。お大師さまには関心あるが、硬い本を読むのはどうもという方にも、目と耳からお大師さまの生涯、その教えが平易に理解出来るのではないかと思います。是非ご観賞を！

当日券一、五〇〇円のところ前売券一、二〇〇円にて朝日寺でつかっています。

観覧料は当日券の場合八百円ですが、真言宗寺院にては特別に六百円にて入場券を頒布しておりますのでお求め下さい。

映画「空海」

百ヶ寺参拝写経会の旅

大土井　田中修一

京都の魅力は何であろうか、説明しにくい不思議なものであるが、折ある毎に出かけたい地である。

去る六月十・十一日両日、計らずも亦、京都を訪ねる機会に恵まれた。それは牛窓の西寺と服部養老会の百ヶ寺参拝写経会の旅で、朝日寺から参加された若松住職のお伴をさせて頂いた。帰途のバスの中で、感想をまとめて置くようにとのことであったので、筆を執ってみて、これは大変なことを引受けて仕舞ったと気がついた。単なる物見遊山の旅でないことは重重心して参加した心算りであるが、どのようなものが出来るやら、心許ない次第である。

六月十日の朝七時すぎ一行二十五名のバスに同乗させて頂き、国道二号線を東し、上郡で北折、佐用から中国自動車道へ、京都へついたのは十一時過ぎであったが、先づ嵯峨の天竜寺のほとりの老人ホーム嵐山寮を慰問、施設を見せて頂き、よく整備され、在園の方方の顔も明るく、誠に気持ちよい施設であった。昼食後京都の街を東へ走り抜け、第一日の日程の、山科の勧修寺と随心院へ、こゝではそれぞれ写経も行なわれた。どちらも由緒古い寺で、建物、庭園共宏壮で、特に勧修寺の庭の樹令七百五十年という這柏槇、黄門様寄進といわれる灯篭、落雷で裂けて二本になったという楊桃、永室池といわれる泉水、随心院の庭の大杉苔等、印象に残るものであった。

勧修寺での写経は大石順教尼ゆかりの仏光院という塔頭で行なわれたが、当時順教尼のことはテレビで毎日放送されていた頃で、その写経の苦心談も聞かされた、随心院は小野小町にゆかり深い寺といわれ、何となく明るい静かな雰囲気であった。

第二日は宿舎白鹿荘からすぐの、三條烏丸に近い六角堂へ参詣からはじまった。こゝでは出勤途中らしい人の参詣がつゞいていて、流石京都の町だと思った。

日程は、洛南の泉涌寺で今熊野観音寺、醍醐三宝院で、泉涌寺で写経が行なわれた。

泉涌寺の大門から、月輪山の緑に囲まれてひっそりした境内へくだる参道の雰囲気は、ほかの寺では味わえないものであろう。寺内には後水尾天皇から孝明天皇まで、十四代の皇陵があり、皇室の香華院として、崇敬厚きところと聞く。

寺内の案内をしてくれた爺さん、一行が三十人に足りないと渋るのを、なだめすかして説明してもらったが、聞きかえしても馬耳東風、しゃべるだけしゃべると、すたすたと引き上げて仕舞った。

観音寺は泉涌寺につゞく、今熊野といわれるあたりで、一帯には外に九ヶ寺の泉涌寺の塔頭もあるとか、寺内には珍らしい菩提樹の花が咲きためていた。

醍醐三宝院は丁度さつき刈込みの最中で、これから緑深い夏姿となる時であった。殿舎庭園は太閤秀吉の造営とか、いかにも豪華雄大、庭園の中心に藤戸石というのがある。備前にゆかりの名であるが、さてどのような由緒があるのか、聞き洩らして仕舞ったが、この醍醐寺一山には、国宝、文化財、古文書、十余万点が収蒐されていると言う、太閤死し、豊家亡んで四百年、覇業は短かゝったが、文化のあとが、斯の様に残ったことは以て瞑すべきではあるまいか。

これで京都方面の日程は全部了り、帰途宝塚で中山寺に参詣、往路を逆に、帰路についたのであるが、全行程ゆっくりした旅で、案じていた疲労も大したことなく、一行の方々にご迷惑をおかけすることも先づ〳〵なかったと思うが、この点私の一人合点でなければよいが。

尚今回の行は、これが第一回で、引つづき毎年本山巡拝が行われるものと思われるので、朝日寺からも多数参加願いたいと思う。取り止めない、まとまりのないことを長々記し、貴重な紙面を汚すことを、深くお詫びする次第である。

京都にて

小豆島八十八ヶ所巡り　五月二十三日

小豆島巡りも今回で三回目を数えました。

前二回と同様、日生より大部に渡りました。観音寺にて無事な旅を祈願の後、名物のうどんを接待になりました。今回は福田・坂手回りで土庄より岡山港に帰って来ました。小豆島の霊場の特徴は何と言っても恵門滝・笠ヶ滝に象徴される様な、切りたった崖を背後にかかえた寺。今回はそういう寺として洞雪山へお参りしてきました。崖の途中に洞窟があり。福徳をもたらすという毘沙門天が本尊として祭られていました。そのせいか「一億円」札のお守が授けられていました。洞窟を出て、遙か下方に広がる瀬戸内の海を見ると、まさに雲上の洞窟という感じで、洞雲山という名がぴったりでした。

高野山参拝募集

五月十日(木)、十一日(金)の一泊二日で高野山宿泊東大寺、薬師寺参拝のコースにて檀家の皆様方のご参加を募集しておりますが、現在八十一名の参加数です。募集予定九十名まであとちょっと余裕があります。ご希望の方は申込みをお早く。申込金二千円、参加費二万円前後。

黒井山復興に御協力を

隣寺黒井山等覚寺は去る三月十七日昼過ぎ台所付近より出火。折からの西風にあおられ、客殿、くり、はなれを全焼、以後協議が重ねられ、古くなった本堂建替之も含めて一億円余の規模にて復興が進められております。ご援助をご希望の方は、とりつぎを致しますのでお申し出下さい。

〈黒井山等覚寺完成予想図〉

短歌数首

過ぎ去りし
　法界くぐり
　　仏心を
ざんげ反省
　　成ぜん道を

幼な時
　不幸浮沈の
　　辛い時
支えてくれた
　　慈愛仏心

胸の内
　明け覗きして
　　仏心を
遍路姿の
　　野路田舎者